

帝京大学女性研究者
研究活動支援事業総括
シンポジウム

女性医師・研究者支援センターは2013年に文部科学省女性研究者研究活動支援事業（一般型）に採択され、女性研究者への支援活動を行ってきました。この度、今年度で終了となる本事業の成果を報告するとともに、科学技術振興機構（JST）科学技術プログラム推進部プログラム主管の山村康子氏、元人事院総裁、元内閣府・厚生労働事務次官、現 埼玉県立大学理事長の江利川毅氏にご講演いただく予定です（当日託児先着順・事前申し込み2月5日）。

シンポジウム開催概要

日時：2016年2月20日（土）10時～12時
場所：帝京大学医学部附属病院6階医局内大会議室

- 開会挨拶（10時00分～10時05分）
沖永寛子（帝京大学常務理事・副学長、帝京大学女性医師・研究者支援センター長）
- 基調講演（10時05分～10時30分）
山村康子氏（科学技術振興機構（JST）科学技術プログラム推進部プログラム主管）
- 特別講演（10時30分～10時55分）
江利川毅氏（元人事院総裁、元内閣府・厚生労働事務次官、現 埼玉県立大学理事長）
- 休憩（10時55分～11時05分）
- 研究支援員事例紹介（11時05分～11時25分）
井上まり子（帝京大学大学院公衆衛生学研究所講師）
堀江早喜（帝京大学女性医師・研究者支援センターコーディネーター・研究員（2013年度研究支援員））
麻生保子（帝京大学医療技術学部准教授）
櫻井純子（帝京大学大学院公衆衛生学研究所修士課程1年（平成27年度研究支援員））
- 環境整備エビデンス構築（11時25分～11時45分）
竹内真純（帝京大学女性医師・研究者支援センターコーディネーター・研究員）
竹之下真一（帝京大学大学院公衆衛生学研究所修士課程1年）
- 総括（11時45分～11時55分）
野村恭子（帝京大学女性医師・研究者支援センター室長）
- 閉会挨拶（11時55分～12時00分）
沖永佳史（帝京大学理事長・学長）

ロールモデルセミナー

日時：2016年3月8日（火）18時～
場所：板橋キャンパス本部棟4階会議室1
内容：「女性医師から見た腎の不思議～AKIからCKDまで（仮）」
柳田素子教授（京都大学大学院医学研究科腎臓内科学講座）

医学生・研修医等をサポートするための会
—新専門医制度とキャリア形成を考える—

日時：2016年3月19日（土）14時～16時30分
場所：板橋キャンパス本部棟2階臨床大講堂

第3回学内アンケート
「育児・介護と職場環境と仕事満足度に関するアンケート調査」

郵送にてお手元に届き次第、何卒ご協力をお願いします。結果につきましては当センターHPに掲載予定です。

帝京で働く女性のための交流カフェタイム

日時：毎月第1、3木曜日 12時15分～13時15分
場所：女性医師・研究者支援センター（病院棟6階医局内）

TOPICS CONGRATULATIONS!!

2015年9月26・27日（土・日）、第4回日本くすりと糖尿病学会学術集会在開催され、メンター制度を利用している帝京大学薬学部医療薬学講座病態生理学研究室の大学院生高田裕子さんが、「妊娠糖尿病の患者情報から推測される健康管理の重要性」にて優秀演題賞を受賞しました。



女性活躍推進法が成立しました！

これにより、2016年4月1日から労働者301人以上の大企業は、女性の活躍推進に向けた行動計画の策定などが義務づけられることとなります。

お問い合わせ先
帝京大学女性医師・研究者支援センター 〒173-8605 東京都板橋区加賀 2-11-1 病院棟 6階
Tel. 03-3964-8456 / Fax. 03-3964-8457 / E-mail: women@med.teikyo-u.ac.jp
開室曜日・時間：月～金 9時～17時 ※掲載情報は2016年1月現在のものです。編集：堀江／竹内／仲山



帝京大学女性医師・研究者
支援センター NEWS

Teikyo University Support Center for Women
Physicians and Researchers



グラウンデッド・セオリー・ワークショップと
イブニングセミナーを開催

2015年11月18・19日、女性医師・研究者支援センターで2つの催しを開催しました。

ひとつは、イギリスのニューキャッスル大学よりJanet Illing先生（写真：上段中）、Charlotte Rothwell先生（写真：上段右）、Paul Crampton先生（写真：下段中）をお招きし、2日間にわたる講義・ワークショップを開催。実際にインタビューデータを分析し、代表的な質的研究であるグラウンデッド・セオリー（GT）についての学習を行いました。特に講義ではGTの概念から歴史、システムティックレビューの方法、ワークショップではインタビューの逐語録を用いたコーディングや理論の生成が行われ、質疑応答も活発に有意義な場となりました。参加人数は2日間でのべ85名にもお越しいただくことができました。

また、イブニングセミナーでは、アメリカのミシガン大学医学部准教授の女性医師 Jagsi Reshma先生（写真：下段右）がご講演。18日は「医療界の男女格差」について、米国における医学参画はわずかな女性しか上位管理職についていない現状、性別の平等は組織レベルでの認識や変化を通じて促進されなくてはならないことを、19日は「乳がんの行き過ぎた治療について、患者をどのように誘導すべきか」について、明らかな浪費や過剰治療という簡単なケースを排除し、医療における「意味のある利益」や「価値」は何かを一般市民が熟考するよう主導すべきであるなど、貴重なご話をいただきました。特に19日は帝京がんセンター、帝京大学医学部附属病院がんセンターボード、帝京大学がんプロフェッショナル養成基盤推進プランとの共催で行われました。

グラウンデッド・セオリー・ワークショップ概要

日時：2015年11月18・19日（水・木）
場所：帝京大学板橋キャンパス大学棟 105 講義室

18日（水）
9時30分～12時00分 イントロダクション
13時30分～16時30分 ワークショップI：グラウンデッド・セオリー研究
実践：女性医学生データを用いてコーディング

19日（木）
9時30分～11時20分 ワークショップII：データから理論へ
11時20分～13時00分 実践：論文化に向けてコーディング
14時30分～16時10分 システムティックレビューの方法
16時10分～16時30分 質疑応答

イブニングセミナー概要

日時：2015年11月18・19日（水・木）
場所：帝京大学板橋キャンパス大学棟 105 講義室

18日（水）
18時～19時30分
米国における医療界の男女年収格差 ～日本より進んでいるはずが…～
「Gender differences in the salaries of physician researchers.」
(JAMA2012 発表論文より)

19日（木）
18時～19時30分
米国の最新がん治療 ～患者のための賢い乳癌治療選択～
「Stewardship and Value in Oncology: Are We Choosing Wisely
in Managing Breast Cancer in the United States?」

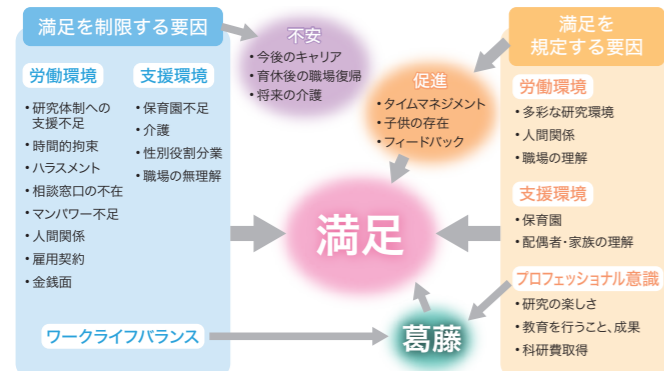
特集

女性医師・研究者支援センター活動報告

職場の満足度に関するインタビュー調査

2014年10～12月、帝京大学各キャンパスの教員、医師、看護師、職員13名(女性85%、男性15%)を対象に、職場の満足度に関するインタビュー調査を実施。インタビューデータは個人情報削除したうえで、年齢、婚姻状況、立場の異なる女性4名(女性センター室長 野村恭子、研究員 竹内真純・堀江早喜、医療技術学部臨床検査学科4年 田邊杏由美)によって、修正版グラウンデッド・セオリーを用いて分析を行いました。

インタビュー結果の概念図



教職員の仕事への満足度はおおむね高く、満足度を規定する労働環境として、研究テーマの自由さや他大学との共同研究といった多彩な研究環境、男女の対等性や産休・育休への理解といった良好な人間関係が挙げられました。さらに、保育園や家族・同僚による支援環境、研究・教育によって得られるプロフェッショナル意識が挙げられ、タイムマネジメントのしやすさ、子供の存在、成果のフィードバックなどによってそれらが促進されることがわかりました。

一方、仕事の満足度を制限する労働環境としては、研究体制への支援不足、夜間・休日の業務や研究以外の業務の多さといった時間的拘束、ハラスメント、相談窓口の不在、マンパワー不足による過重労働、人間関係のこじれなどが挙げられました。さらに、保育園の不足、育児や介護に対する職場の無理解といった支援環境の不十分さ、子育てのためのキャリアの制限などのワークライフバランスの難しさが語られ、これらの要因が自身のキャリア、育休後の職場復帰、将来の介護などへの不安を生んでいることがわかりました。また、プロフェッショナル意識とワークライフバランスの板挟みとなって心理的葛藤が生じ、仕事の満足度に影響を与えていることが示されました。

発言例

●満足度を規定する要因

「キャリアに関しては、研究業績があって、教育経験があっていうところで評価されていくので、男性だから女性だからという区別はない印象はあります。」

「幼い子供がいるんですが、どうしても熱を出したり、急に仕事ができなくなる事が多く、周りの同僚にかなり負担をかけつつも、「いいよ」という風に仕事を代わっていただいたり、融通を効かせていただいて、すごくサポートしていただけてます。」

「大事な娘や息子をここに預けたっていう親の気持ちを受け取って、それを成果として出さないといいないっていうのが私の中にある。」

●満足度を制限する要因

「自分の研究もあって、授業もあって、会議だなんだあって、プラス、そういう雑用も入ってきてしまうと、本当にいっぱいいっぱいになってしまう。」

「教員が少なく授業が回らないんですよ。育休のための誰か補充は欲しいと思います。」

「(保育園には) 時間制限があったりとか、曜日制限があったりとか。研修会が突然入っちゃっても出られない。」

「子育てをしていると、来ますっていうときに来れなかったり、保育園で呼び出しがかかれば帰らなきゃいけないっていうリスクを考えると、大手を振って「先生、一緒に研究をやりましょう」とは言えない。」

●葛藤・不安・満足

「子供の具合が悪いときに、どこまでだったら保育園に行かせてしまっ、どこまでだったら休むっていう、気持ちの面での割り切りがあまりできてなくて。」

「介護のことも、近い将来、もう見ざるをえないと。まだ起こってないけど、頭の縁にないわけじゃない。」

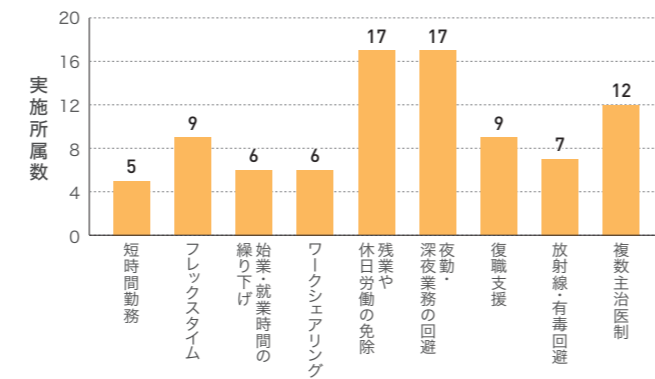
「(職場への満足度は) 満点。仕事もそれなりに責任がある仕事を任されたりするし、負担を感じないように調整もしていただけるので、本当に恵まれている。」

本インタビュー調査により帝京大学教職員のニーズをよく理解することができ、この結果を基に当センターはさらに活動を展開し、様々な企画を提供していくつもりです。ご協力いただいた皆様には深く御礼申し上げます。

診療科アンケート

2015年6月、帝京大学各学部の講座長・学科長・研究室長、附属病院の各診療科長を対象にアンケート調査を実施しました。以下に本調査の一部結果をご報告します。また、ご協力いただきました皆様におかれましては、この場をお借りして深く御礼申し上げます。

主な取り組み内容



2012年に行った講座単位の支援状況調査では「当直の免除」が7講座であったのに対し、今回の調査では「残業や休日労働の免除」、「夜勤・深夜業務の回避」はそれぞれ17講座でした。「復職支援」は6講座が9講座へ、「複数主治医制」は2講座から12講座まで増加。講座ごとに柔軟な勤務体制の導入を推奨していることがわかり、ライフイベント遭遇時の離職を防ぐためには、このような取り組みは大変有用であることがわかりました。

研究者のさらなる飛躍と持続可能な研究整備のための外部資金獲得セミナー開催

2015年9月11日(金)18時より、「研究者のさらなる飛躍と持続可能な研究整備のための外部資金獲得セミナー」を開催しました。沖永寛子帝京大学副学長・常務理事の開会の挨拶にはじまり、東京女子医科大学の富澤康子先生より「科研費申請のコツ」、久留米大学の児島将康先生より「なぜあなたの申請書は採択されないのか? 実例で示すわかりやすい申請書」、帝京大学内科学講座の田中篤先生より「日本医療研究開発機構 (AMED) 研究費公募申請・採択の経験を通じて感じたこと」をご講演いただきました。貴重なご講演内容に、当日参加された156名の先生方は大変刺激を受けられたようです。



ACADEMIC WRITING セミナー開催

2015年10月15日(木)、オーストラリアニューキャッスル大学よりDerek Smith教授をお招きし、「ACADEMIC WRITING Educational seminar for young researchers at Teikyo University」を開催しました。国際論文投稿にアクセプトされる秘訣やご経験豊富な査読側の貴重なご意見に、参加者との質疑応答は白熱。学部生から主任教授など約30名の参加者は、メモなどを取りながら大変熱心に聞き入っていました。



座談会 in 宇都宮キャンパス 開催

帝京大学における女性活躍気運の醸成、ならびに女性研究者に対する支援事業のさらなる推進・周知を目的に、研究に対する思いや家庭生活との両立に関する工夫・悩みなどを話し合う座談会を、宇都宮キャンパスにて開催しました。参加メンバーには総合基礎科目の横山明子先生、齋藤みどり先生、田中瑠美先生、バイオサイエンス学科の高山優子先生にお集まりいただき、当日は活発な議論が展開されました。詳細は、2016年3月発行予定の「女性研究者研究支援活動報告」に掲載する予定です。



ロールモデルセミナー開催

2016年1月12日(火)、アメリカブラウン大学医学部内科クリニカルインストラクター、ロードアイランド病院ホスピタリストの安川康介先生(米国内科専門医、感染症専門医)をお招きし、キャリアアップ・ロールモデルセミナーを開催しました。近年のビザの壁にはじまり、USMLE (United States Medical Licensing Examination) の勉強方法、アメリカにおけるInternational medical school graduates マッチングの実際、キャリア選択におけるマイノリティであることのハンディ、今後のキャリアの方向性、日本の専門医構想に向けたメッセージ、海外で臨床医として働くチャレンジング精神などについてお話しいただきました。安川先生は男女格差にも関心が高く、アメリカ医学界における上位職階の女性医師ジェンダーバランスについても国際誌に意見を掲載されています。

